

# 会話における裸の文末形式の機能

福島悦子、上原聡 (東北大学)

{efuku, uehara}@insc.tohoku.ac.jp

## 1. はじめに

日本語の発話においては、文末に接続助詞「けど」「が」などや「ね」「よ」などの終助詞が多く用いられ、それらを伴わない終止形や体言+ダの形（以下、裸の形と呼ぶ）はあまり用いられないと言われている（水谷1985、メイナード1993など）。実際のデータの詳しい分析結果を示さないものが多い中で、メイナード（1993）は、用言の終止形が他の要素を伴わないでそのまま文末形式となったものを「裸のダ体」とし、会話表現で「裸のダ体」がそのまま他の要素を伴わないで現れるケースについて、「全体の11.98%であった」と報告している。また、個々のケースについて分析した結果、裸のダ体使用について共通して言えることとして、「裸の『ダ体』」は、相手を意識して、相手に受け入れ易いように形成したものではなく、あたかも話者が他に向けて形を整える余裕がなく、又は必要がなく、思考や経験をそのまま表現した『裸』のままの姿のようである」と述べている。しかしながらメイナード（上記）は、丁寧体の使用が極度に少ないというデータの性格から普通体のみを扱ったもので、丁寧体が裸の形で用いられた場合についての分析は行っていない。丁寧体・普通体両スタイルを通して、実際裸の形が用いられる場合とはどんな場合か、また、会話における裸の形が持つ機能は何かについて、未だ十分に解明されていないのが現状である。

本研究は、実際の会話をデータとした談話分析により、裸の形を丁寧体・普通体ともに取り上げ、その会話における機能を求めるものである。特に丁寧体の機能と裸の形の機能との違いを明らかにし、そのかわりによって裸の形の使用を説明できることを指摘する。

## 2. データの性格

データとして「日本語教育学会平成10年度 第5回研究集会」（於昭和女子大）において収録した会話資料を文字化したものを用いる。本研究では、そのうち録音・録画を行った計約60分の部分を分析の対象とした。資料は初対面の30代から50代の女性4人の自然談話で、4人のうち3人は日本語教師、1人は日本語教授経験のある英語教師であり、標準語での会話である。内容は1)研究集会の課題についての話し合い、2)昼休みに食事をしながらの自由会話である。

## 3. 分析の対象

本研究では、裸の形を丁寧体・普通体ともに取り上げ、分析の対象とする。また、倒置とみなされるものについても取り上げる。以下に例を示す。

(1) A: 外国は長いですか↑<sup>(1)</sup>

C: あ、いや、全然ないんです。

(2) A: 仙台のなに祭りだったか、見たことがあります [……]

C: あ、たな／／ばた。↑

B: 七夕ですか。↑ これから／／です。

A: すごい素敵だった。 むかし

(3) D: じゃ、あれなんですか↑ お祭りツアーみたいな団体が

B: あるんです。 → ／／いっぱい。

ただし、そこで文が終わっていても、今回の分析の対象としては取り上げなかったものがある。それらは、a)命令形や「……てください」「……ましょう」のような、命令形に準じる形式を用いたもの、b)質問のイントネーションを伴うもの、c)問いかけ・確認・判断等を表す「……でしょう」の類、d)名詞止めのようなダ抜きの文、e)文の断片的として終止していないと考えられるもの、f)引用の中で用いられたもの、g)挿入句、h)挨拶、i)間投詞的に用いられたものである。また、文末が明確に聞き取れないものについては全て分析の対象からはずした。以下にいくつか例を示す。

(4) B: うーん、→ じゃ、もっぱら話してくださいなんて。

A: {笑い} な、そう、もっぱら話してください。／／こっち食事

- (5) D: 社長いすのほうが／／リラックスできるかなと、お {笑い}  
 B: いただきまーす。  
 A: あー、→ うー、ふんふん。  
 D: 持って来ます。 ↑  
 A: いや、→ いえいえいえ。  
 (6) B: あめ、あ、でも、あめ、あめがふって聞くと、キャンディのあめとも違いますよねー。 ↓  
 D: あめ、でしょ。 ↑  
 B: キャンディのあめはあめ。・<sup>(2)</sup>  
 (7) C: 海外とかに行ってるしゃっ／／ [……] あ、じゃあ、とても、  
 A: [うん]  
 C: ありすぎて [コメ] {笑い}  
 B: なにか、じゃあ、口火を。  
 A: えー。 ↑ 口火を。 ↑ [いいえ] うーん、海外経験、10年ほどあって。  
 (8) A: (略) あの人かわいいねえっていうの、  
コワイ、あの、／／クワイ、うん、よく聞いてみると、／／  
 C: [あはは……すね]  
 B: コワイ。 ふふ。  
 (9) B: 夏祭りは東北ってすごくこう、なんだろう、迫力あって、こう、な、冬に我慢していたものが／／ほんとに、いっきにばーって

#### 4. データの分析

##### 4. 1. 分析の方向

上記の基準をもとにした60分に及ぶ会話の中で、裸の形は115例現れた。その内訳は、丁寧体64例、普通体51例である。メイナード(1993)では、友人同士の普通体を基調とした会話をデータとしたため、丁寧体の裸のダ体が用いられた例は、「直接話法の中で誰かが丁寧体で言ったことを表現するために使うか、又は進行中の会話からはずれて物語の中で使う時に限られていた」と述べているが、初対面の人の丁寧体を基調とする会話をデータとした本研究では、丁寧体の裸の形が普通体の裸の形同様に用いられていることがわかる。会話における裸の形の機能を求めるには、丁寧体の裸の形をも含めた用例を対象とすることが必要なのである。また、丁寧体・普通体両スタイルを対象とした結果、丁寧体・普通体という文のスタイルの持つ機能と裸の形の持つ機能とを分けて求めることが必要であると考えるにいたった。以下、データに現れた丁寧体・普通体それぞれの用例について、メイナード(上記)の指摘と比較対照していくことによって、普通体と丁寧体の裸の形の違いを明らかにする。

##### 4. 2. 話し手の感情・感覚・主観的な判断を表す場合

まず、メイナード(1993)で、「急に思い出したことの驚き、感情の高まりをそのまま表現する」場合に現れると指摘されている裸の形について述べる。本研究では「話し手が思い出したこと・思ったこと・感じたこと・話し手の判断」を表す例をこのケースの用例として扱う。分析の結果、普通体では51例中39例(約76%)が、丁寧体では64例中20例(約31%)がこの用例であった。下にそれぞれの例をあげる。

###### (10) (冷房のききすぎた部屋に入ったときの発話)

- C: あー、／／寒い。  
 A: あー、→ ／／寒い。  
 C: ほんとにさ／／むいですよーねー。 ↓  
 A: ジャケット、持ってくれば／／よかったー。  
 (11) B: あー、→ ねぶたもいいですよーねー。 → わたしねー、ねぶたとかー、秋田のカントウとか大好きでー、結構そっち行っちゃうんです。／／重なってるんです。

C: すごいでしょうねー。→

— 331 —

(16)A: いや、日本語教師してるとゆっくりになるじゃないですか、↑ {笑い} どうしても {笑い}

C: あー。→

B: なんか、ゆっくりとゆうよりはー、／／ははっきりと最後までものを

A: はっきりと→

B: 言い切る。／／ {笑い}

A: そう、↓ そう、→ そう。→

文法的すぎる。／／むにやむにやって／／言わない。

## 5. まとめ

以上、丁寧体・普通体の裸の形が会話で用いられた例について分析してきた。本研究での分析の結果、次のことが明らかになった。

- A) 普通体の裸の形は、話し手の感情・感覚・主観的な判断を表す場合に最も多く用いられ、全用例の約76%を占めている。丁寧体の裸の形は、事実や自分の行動についての説明をそのまま伝える場合に最も多く用いられ、全用例の42%を占めている。ついで話し手の感情・感覚・主観的な判断を表す場合が約31%、問いかけに対する答えを表す場合が約22%である。
- B) 普通体の裸の形は、当該発話が「相手を意識して、相手に受け入れ易いように形成したものではなく、あたかも話者が他に向けて形を整える余裕がなく、又は必要がなく、思考や経験をそのまま表現した」(メイナード、1993)ものであることを示す機能を有するとしているが、丁寧体・普通体という文のスタイルの持つ機能とのかかわりが明らかとなった。「相手を意識していない」という部分は、むしろ普通体に特徴的な機能であると言える。相手を意識しながらも、話し手が伝達内容以外のことを伝える必要や余裕がない場合に丁寧体の裸の形が使われるのである。

データには、複数の話し手が共同で一つのまとまった内容の発話を作る場合や他者のことばを繰り返して言う場合等、今回の分析でふれられなかった用例も数例あるが、それらは今後の発表の機会を待ちたい。また、裸の形と、それに終助詞等の要素がついたものとの違いを明らかにすることは、今後の課題としたい。

## 謝辞

本研究のデータとして会話資料を用いることを許可して下さった研究集会Bグループの方々、研究集会講師のポリー・ザトラウスキー、中山晶子両先生に謝意を表する。

## 注

(1)例で使用した各記号は、次の意味を表す。

→、↑、↓: 文末の平板、上昇、下降イントネーションを表す。

／／: 前の発話が終わる前に次の発話が始まる場合の後の発話が始まる位置を表す。

{ } : 「笑い」等、発話以外の要素を表す。

[ ] : 当該発話が明確に聞き取れないものであることを表す。

(2)名詞が文末にくるものの他に、「そうそう」などの副詞、「……あのいけないかなあと思う、例がまた、最近あったの」などの「の」が文末に現れるものも、ダ抜きの文として扱った。

## [参考文献]

1. メイナード・泉子・K 1993 『会話分析』 くろしお出版
2. 水谷信子 1985 『日英比較 話しことばの文法』 くろしお出版